



集落防護柵の修繕費・更新費を計画的に積立 ～篠山市小多田集落の取り組み～



地区の概要

全戸数	115戸
農作業従事戸数(家庭菜園含む)	67戸
専業農家	9戸
農地面積	約44ha
生産目的	ほぼ販売用
集落営農	有(共同利用型)
生産組合	有(黒大豆)



これまでの対策

- 1998年**
 - 集落防護柵の設置**
山際に、約7400mの金網柵を設置。年4回の定期点検を実施。その他不定期点検も行う。柵設置当初から、防護柵管理組合で**管理協議費を積立** **班ごとに点検箇所を分担**
 - 捕獲対策** 集落内に猟友会の檻1基設置。連携した捕獲作業
- 2010年頃**
 - 倒木目的で24本の樹木を伐採**
防護柵上部からのシカの飛び込み防止目的で
- 2011年**
 - ひこばえ対策**
各戸に資料配布して、対策をよびかけ

ここに注目!

柵設置当初から修繕費、更新費を積立・運用

小多田地区獣害防護柵設置管理協議会

- ・担当役員: 8名(うち4人は農会兼務)
- ・年4回の定期点検(+不定期点検)
- ・班ごとに点検箇所を分担

管理協議会費の積立(柵設置時から)

- ・1戸あたり1000円/年
- ・田: 1000円/反、畑: 600円/反
- ・全体で年間約50万円を徴収し、約20万円を修繕費に、**柵の老朽化に伴う更新を見込んで、残り30万円を計画的に積立。**



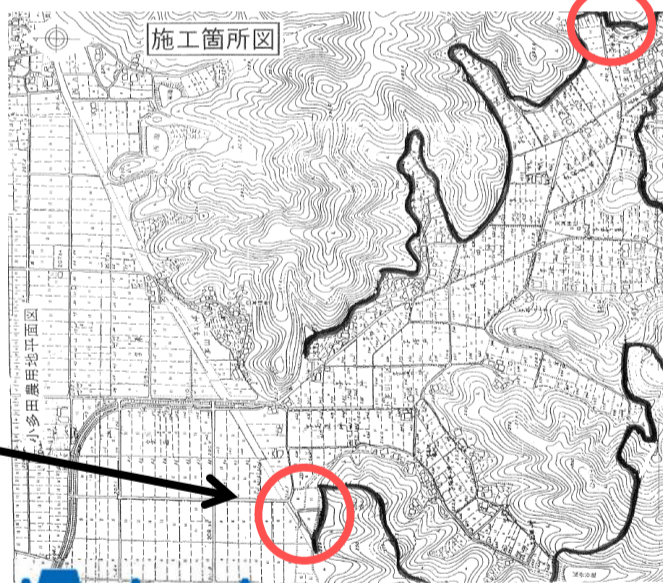
上部の飛び込み対策は有刺鉄線、下部からの侵入はトタンで対応



国道に面していて、柵の切れ目に近い圃場は個別柵で囲う



柵で封鎖できない道路は、両脇に柵を延長して対応。夜間は扉を閉めるなど開口部対策にも取り組む。



沢からの侵入防止対策



冬場のひこばえ対策にも取り組みを始める。

取り組みの成果と今後の課題



集落防護柵の管理である程度侵入を抑えているが、平成10年に設置した集落防護柵は当初の高さが1.8mであり、10年以上経って段々低くなってきている。場所によっては上部からの飛び込みが多く、高さUPが主な課題。



シカよりは少ないが、柵の下部をめくりあげて侵入してくる。トタンを張るなどして、管理しているが、杭を打ちきれないところもある。



猟友会との連携した取り組みで捕獲対策にも力を入れていくほか、ひこばえなど冬場の餌をなくすため、各戸に資料配布して呼びかけている。

センター講評

篠山市の中でも、いち早く集落防護柵の設置に取り組み、設置当初からしっかりとした管理体制を築きあげるなど、大変意欲の高い集落です。柵設置から10年以上経過しているため、補修箇所が多く、対応が大変になってきている面もありますが、管理費を徴収して修繕費に充てるほか、更新のための費用を、柵設置当初から計画的に積み立てている体制は、他地域にぜひ知ってもらいたい大変素晴らしい取り組みであると言えます。

